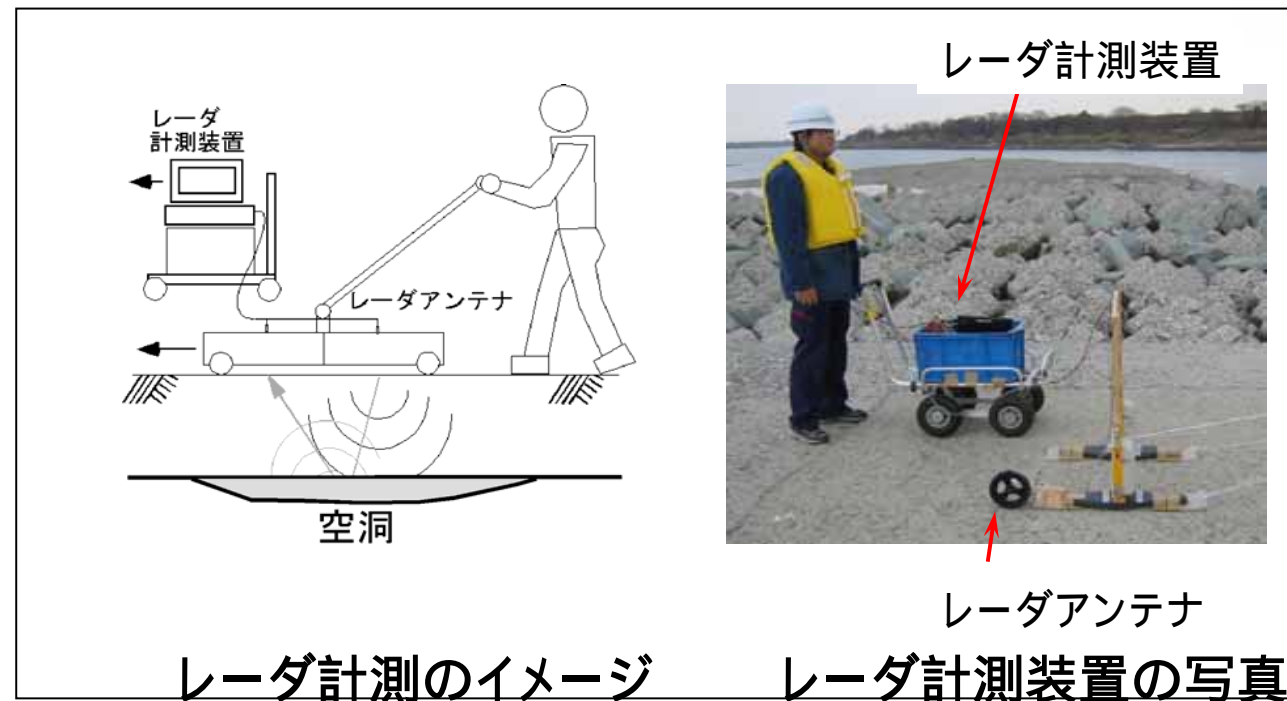
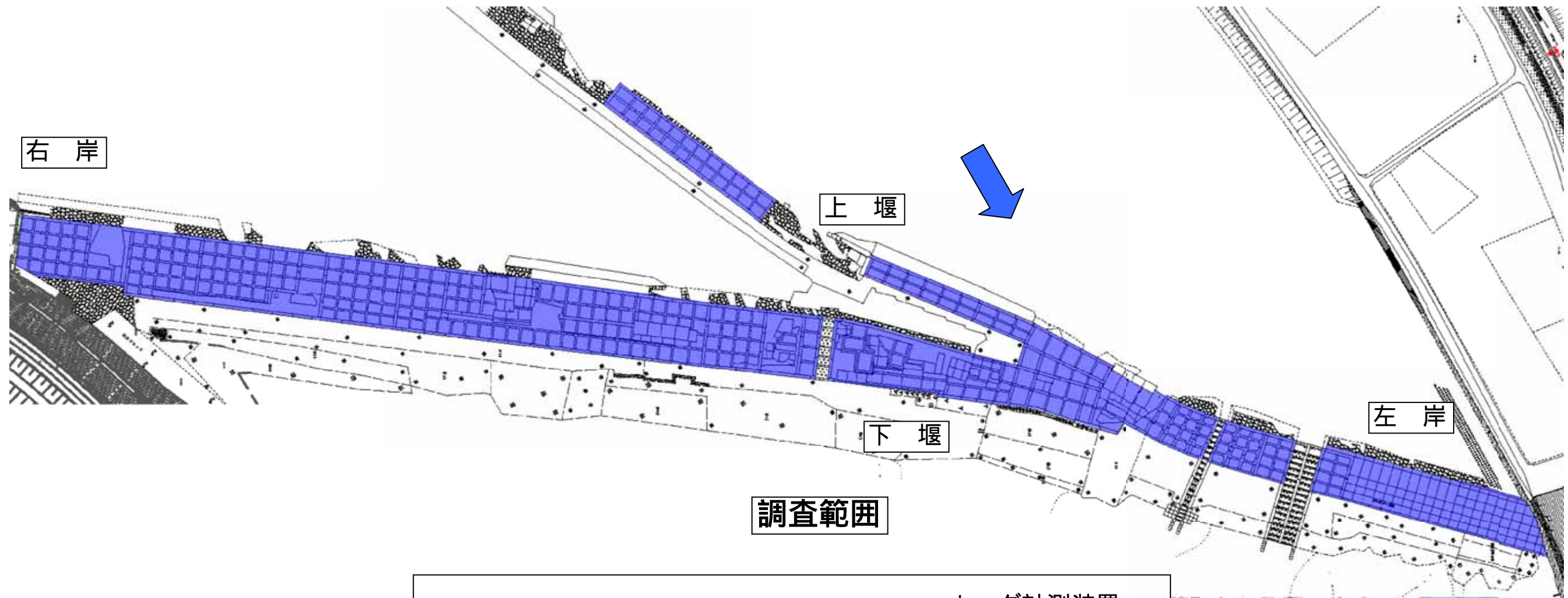


3. 空洞化調査

1. 調査概要

- 1.1 調査目的：堰本体コンクリート張背面の空洞化の状況を把握することを目的とした。
- 1.2 調査方法：空洞部の面的分布の把握をレーダ調査により実施し、空洞の深さおよびコンクリート張背面状態の確認をコア削孔および水中カメラにより実施した。
- 1.3 調査範囲：堰本体コンクリート張部を対象とした（魚道部、護床工、青石張部は対象外）。なお、調査範囲を下図に示す。



レーダ計測のイメージ

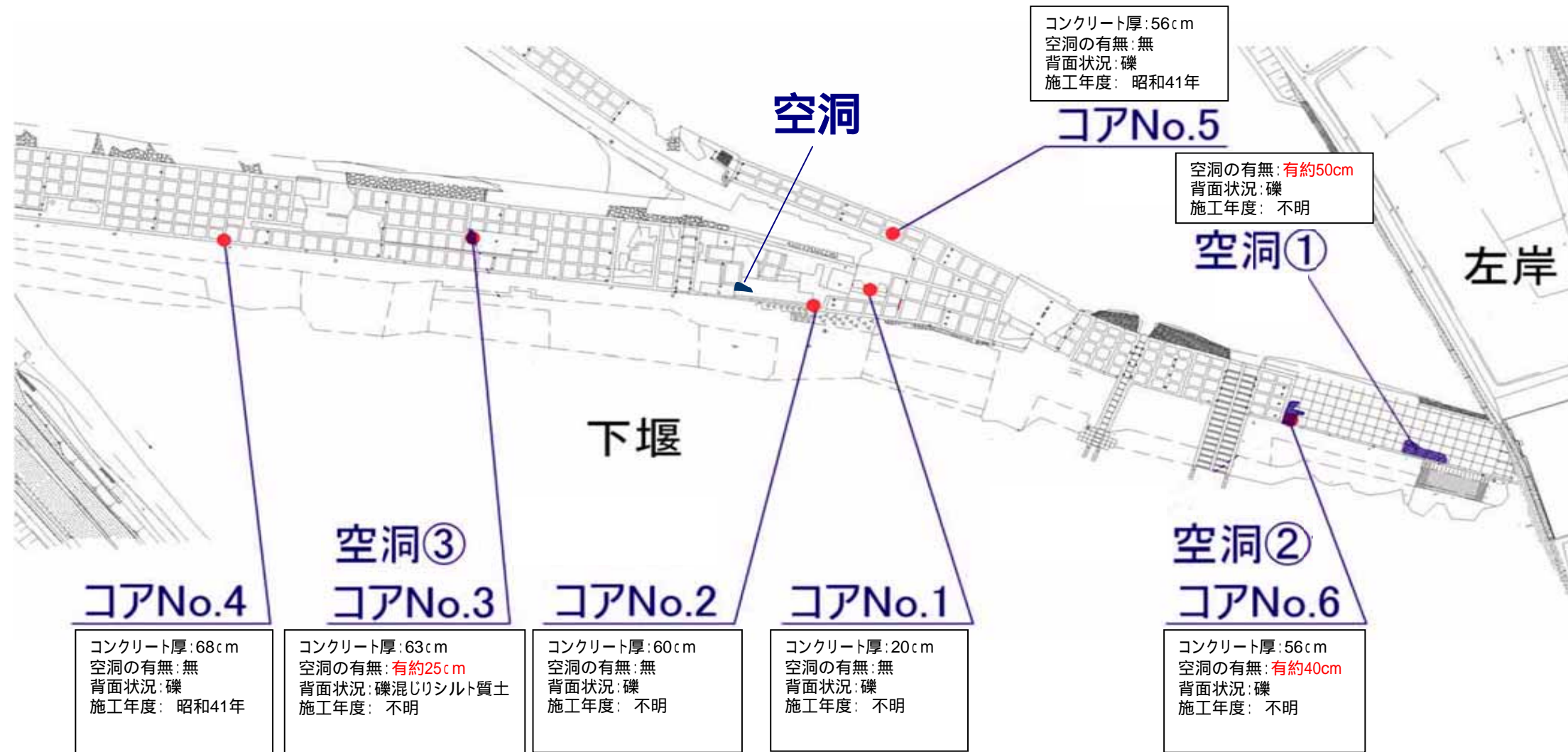
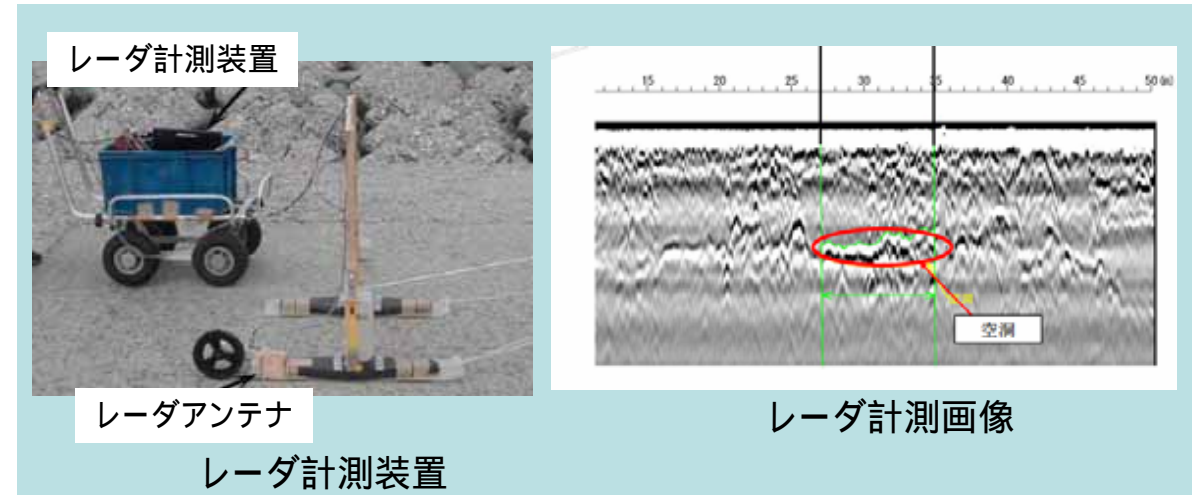
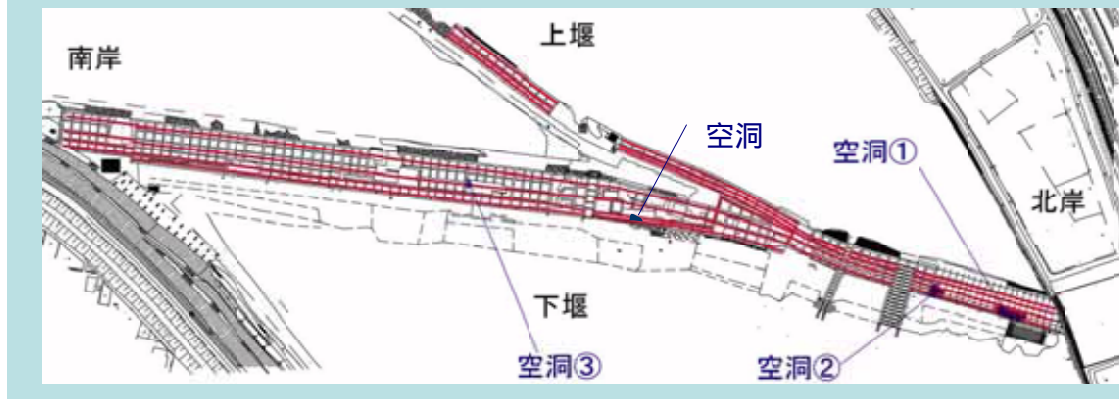
レーダ計測装置の写真

2. 調査結果

- ・空洞箇所：4箇所(空洞は、水中カメラ調査未実施)
- ・空洞深さ(最大値)：空洞 約50cm、空洞 約40cm、空洞 約25cm、空洞 約35cm(レーダ調査による)

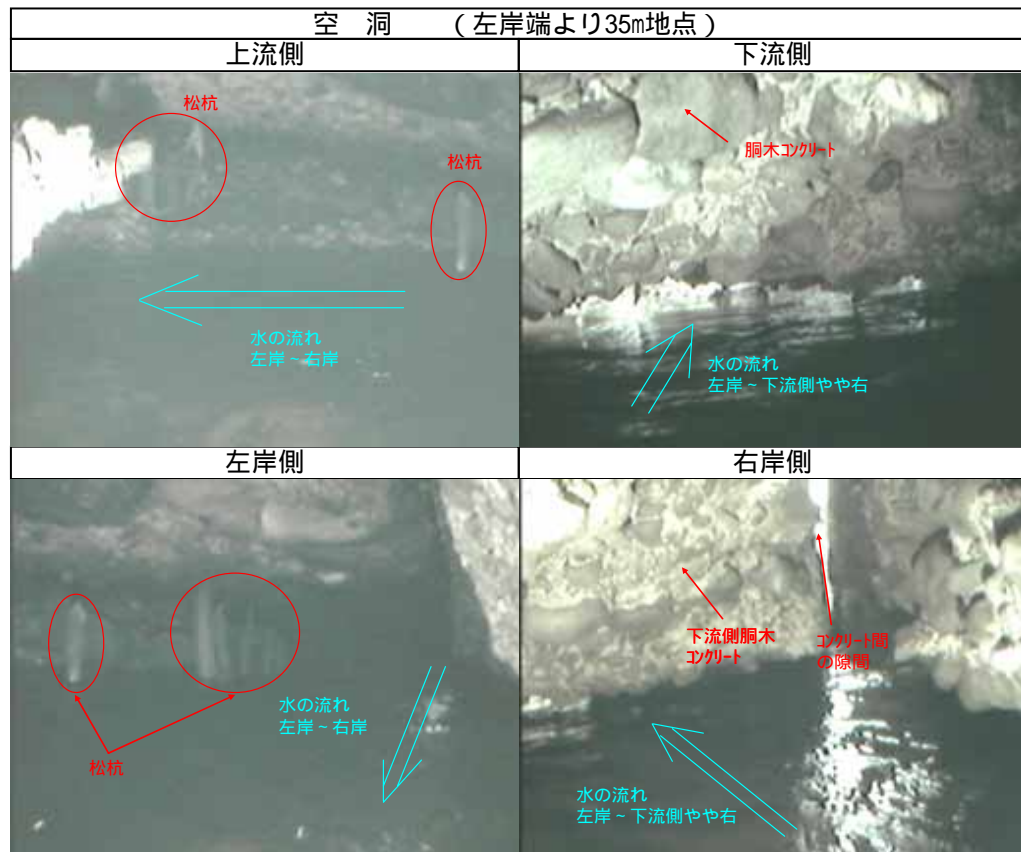
空洞化調査結果まとめ

レーダ実施測線

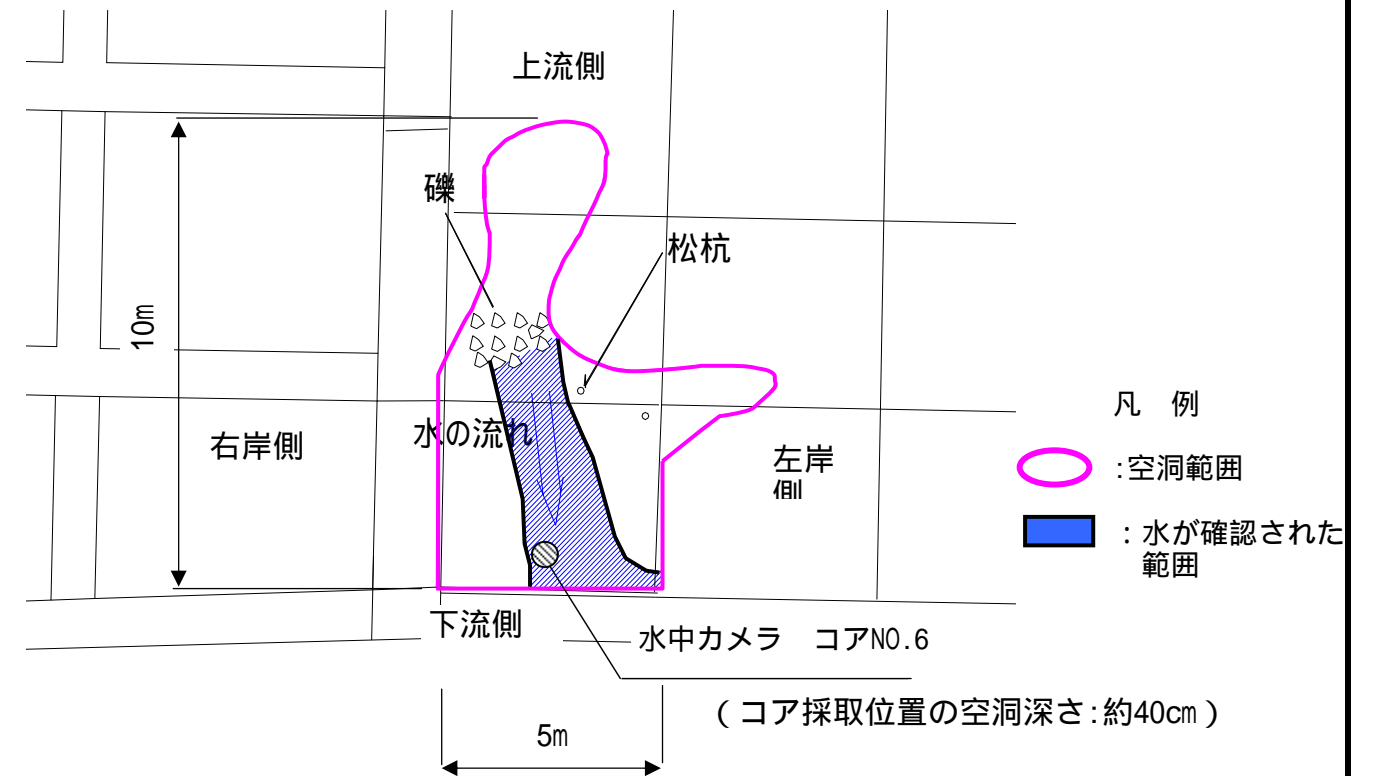
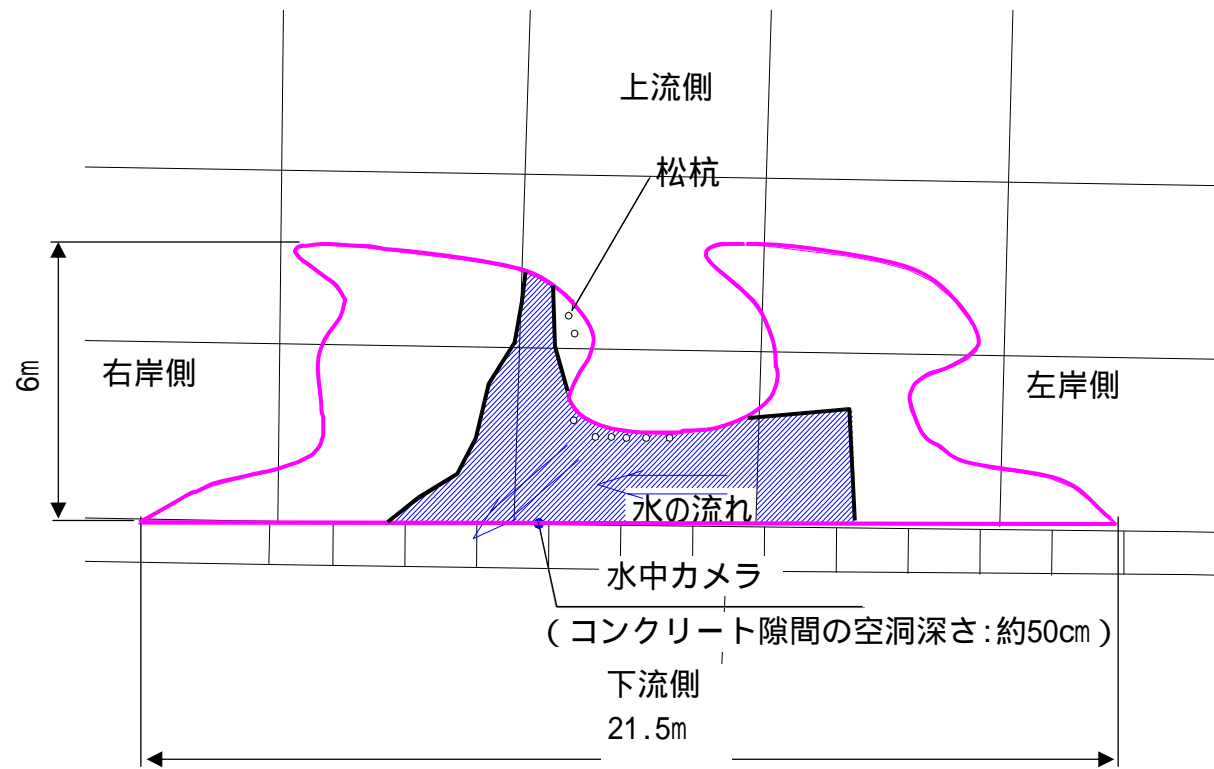
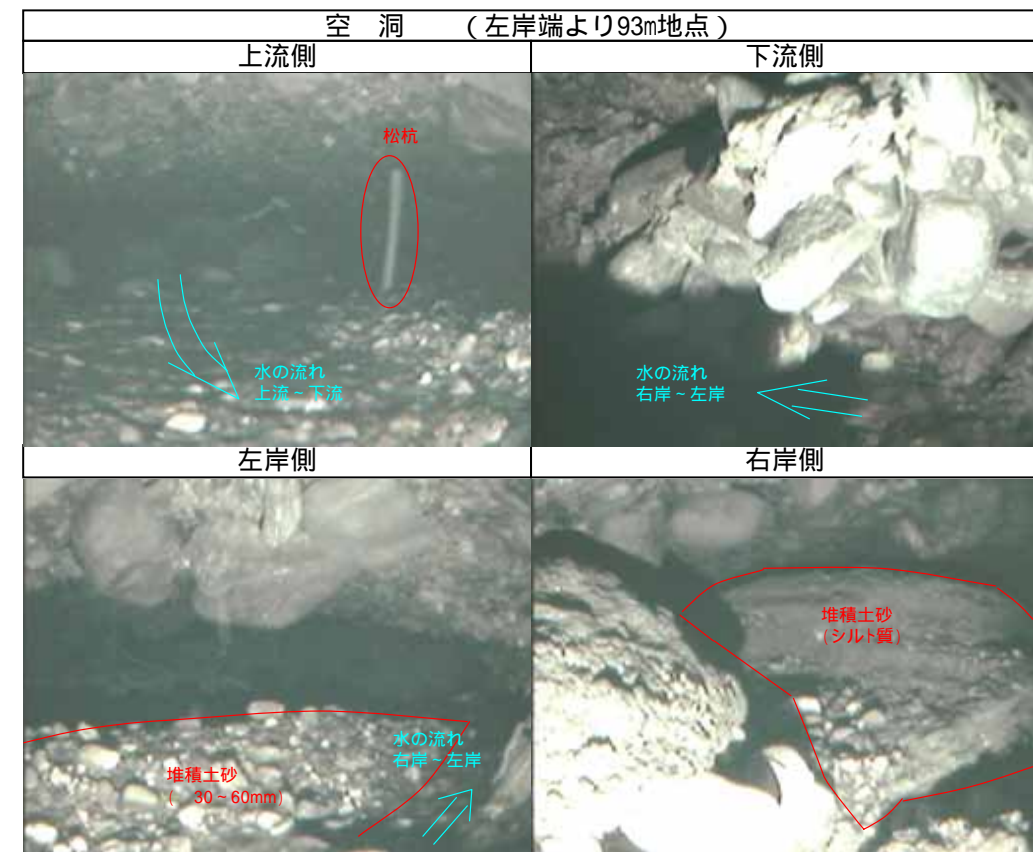


・水中カメラによるコンクリート床版背面状況

空洞



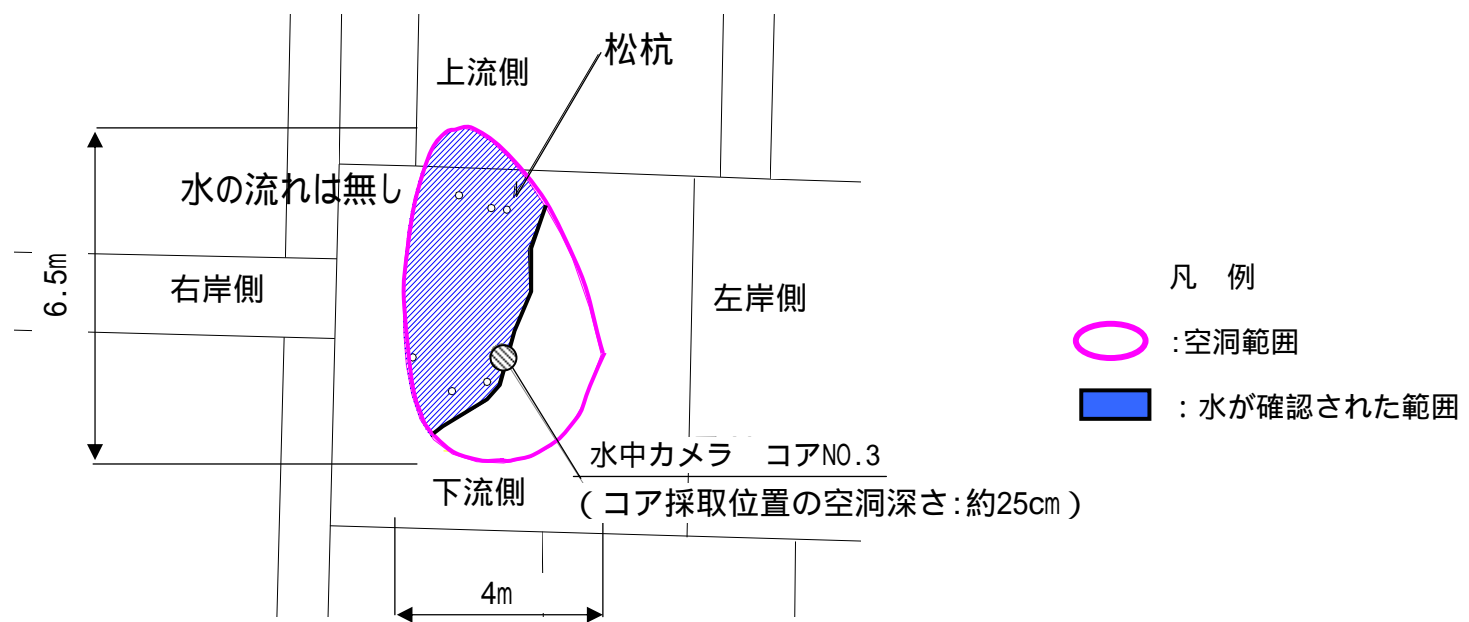
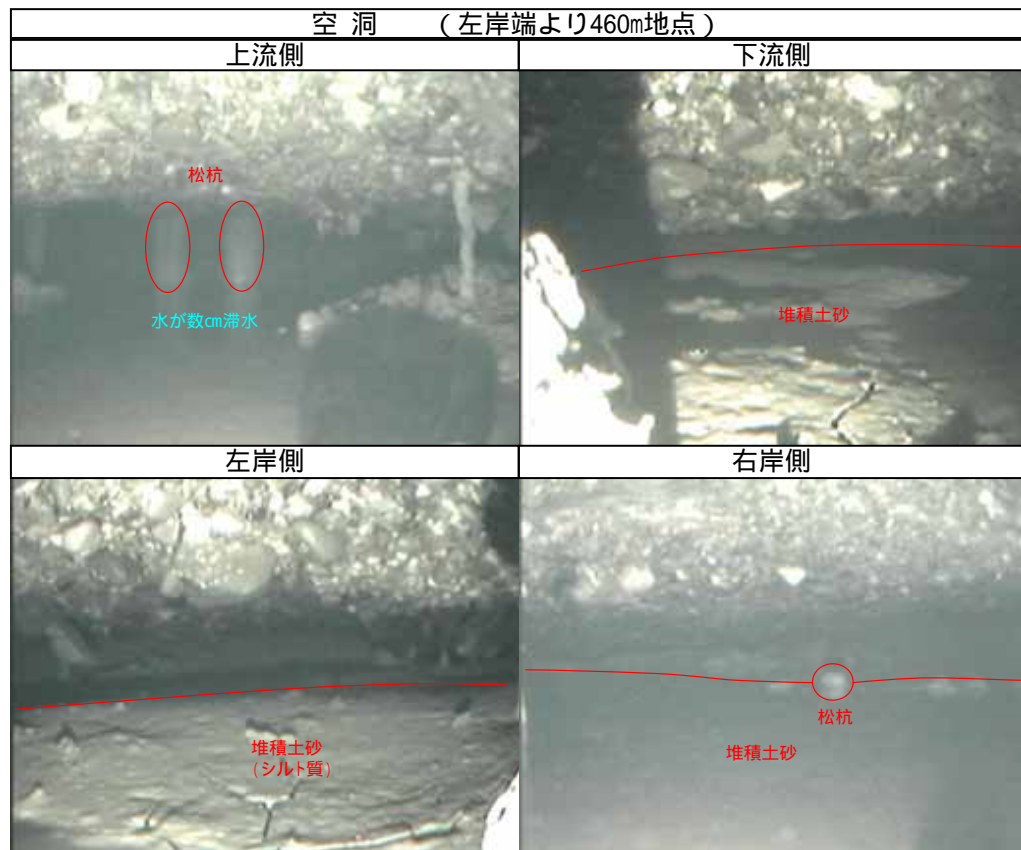
空洞



- 凡例
- : 空洞範囲
 - : 水が確認された範囲

空洞範囲はレーダ調査により推定した範囲

空洞



空洞範囲はレーダ調査により推定した範囲